

令和3年度 第1回 大野市総合計画・総合戦略推進会議 議事メモ

日時：5月26日(水) 10時00分～11時30分

場所：結とぴあ 305・306号室(3階)

- 出席委員 全21名中16名
- 石山市長、政策推進課員(事務局)4名

1 開会

事務局より開会

2 委嘱状交付

市長から委嘱状を交付

3 委員の紹介

別紙委員名簿のとおり(事務局から欠席委員を報告)

4 会長、副会長の選任

会長 福井県立大学 特任教授 地域経済研究所所長 南保 勝 氏

副会長 大野市連合ふわわ女性の会 会長 石塚 淳子 氏

○会長あいさつ

- ・先日、今庄方面に行ったときに、子どもから大きな声で挨拶され、まちづくりに一番重要なことは地域が一丸となって取り組むという気概だと感じた。
- ・経済の活性化、人口の流れ、子育て環境、循環型社会というような具体的な観点も重要。
- ・推進会議では総合計画に基づくこれらの施策を推進していくことが狙い。皆さんの意見をいただきながら、より良い会議にしたい。

5 市長あいさつ

- ・本推進会議の委員をお引き受けいただき感謝申し上げます。
- ・第六次大野市総合計画及び第2期大野市総合戦略は、今年4月からスタートした。策定の過程において、たくさんのご意見をいただいたことに、重ねて感謝申し上げます。
- ・第六次大野市総合計画で目指す10年後のまちの将来像は「人がつながり地域がつながる住み続けたい結のまち」。他人事としてではなく、私たち市民がここにずっと「住み続けたい」という想いが込められている。
- ・第六次総合計画には、「みんなができること」という項目を取り入れている。市民、団体、企業などそれぞれの立場からプレイヤーとしてのご意見をいただきたい。
- ・大野市総合戦略については、これまで、小さな会議体(専門部会)において施策の改善提

案について個別具体的に議論を行ってきた。その結果、「大野ですくすく子育て応援パッケージ」のように市の施策として実現につながった提案もある。今回の会議においてもこのような形でのご参画をお願いしたい。

6 推進会議の趣旨説明

○会議設置要綱について 資料1

(説明概要)

- ・推進会議は、第六次総合計画及び第2期総合戦略に基づく施策の実施状況及び効果の検証を行うことが目的。
- ・総合戦略については、対象期間中（令和3年度～令和7年度）に改訂などが必要になった場合に、この会議で協議する。

○会議スケジュールについて 資料2

(説明概要)

- ・6～10月には専門部会を開催することを考えており、10月には第2回の推進会議を開催し、本年度の主要事業の進捗状況の説明や専門部会からの報告を行う。推進会議でいただいたご意見については、翌年度の取り組みや予算に反映することを検討したい。
- ・来年度は、第六次総合計画及び第2期総合戦略の1年分の実績が出てくるので、施策の実施状況及び効果検証に関してご意見をいただきたい。

7 議事

(1) 第五次大野市総合計画後期基本計画、第1期大野市総合戦略の実績について

○第五次大野市総合計画における取組報告 資料3-1

(説明概要)

- ・総合計画とは、大野市の将来を展望し、まちづくりの目標と方向を明らかにした最上位の計画。
- ・第五次大野市総合計画後期基本計画（平成28年度～令和2年度）における取り組みを6つの基本目標ごとに説明する。
- ・人口目標を令和2年に32,000人と定めて取り組んできたが、実績は30,556人であった。
- ・ふれあい交流人口（人口+一日当たり観光入り込み客数）目標を令和2年に38,000人と定めて取り組んできたが、実績は33,617人であった。令和2年は新型コロナの影響により観光入込客数が大幅に減少したことが要因。
- ・「基本目標① 優しく賢くたくましい大野人が育つまち」分野における主な取り組みは、ふるさと学習交流会やみこしダンスパフォーマンスの開催、COCONO アートプレイスの

整備、福井しあわせ元気国体・元気大会の開催 など。

- ・「基本目標② 共に思いやり支え合う安全で安心なまち」分野における主な取り組みは、「大野ですくすく子育て応援パッケージ」などの子育て支援、歩くことから始める健康づくり事業 など。
- ・「基本目標③ 誰もが快適で暮らしやすいまち」分野における主な取り組みは、中部縦貫自動車永平寺大野道路の全線開通、大野油坂道路の用地取得の完了、道の駅「越前おおの荒島の郷」の整備、国道476号西部アクセス道路(犬山交差点～亀山西)の整備 など。
- ・「基本目標④ 越前おおのの魅力あふれる活力あるまち」分野における主な取り組みは、「天空の城 越前大野城」や「日本一きれいな星空」の情報発信、ポポロドットファイブの整備支援、六呂師高原での星空イベント、富田産業団地の整備 など。
- ・「基本目標⑤ 美しく豊かな自然環境を育み継承するまち」分野における主な取り組みは、「水への恩返し キャリングウォーター」事業の実施、「化石発掘体験センターHOROSSA!」の整備、脱炭素社会の実現に向けた「ゼロカーボンシティ宣言」 など。
- ・「基本目標⑥ 基本構想実現に向けた行政運営」分野における主な取り組みは、人口減少対策会議の開催、大野へかえろう事業の実施、フェイスブックやラインなどを活用した情報発信 など。
- ・第五次大野市総合計画の成果指標(令和2年度目標)が全部で94あるなかで、達成した項目は38であり、その達成率は約40%。

○第1期大野市総合戦略における取組報告 資料3-2

(説明概要)

- ・第1期総合戦略は第五次総合計画に基づく施策のうち、人口減少対策に特化した施策をまとめた計画で、対象期間は平成27年度から令和2年度までの6年間。
- ・第1期総合戦略は、「雇用の創出」、「新しいひとの流れ」、「若い世代の希望をかなえる」、「時代に合った地域づくり」というように施策の方向性ごとに分類している。
- ・総合戦略に基づく地方自治体の主体的・自主的な取り組みを支援する仕組みとして、国の地方創生推進交付金が平成28年度に創設され、市ではこの交付金を活用して総合戦略に基づく施策に取り組んできた。

(意見、質疑) ※資料3-1、資料3-2まとめて

- 委員：・第五次総合計画のすべての成果指標のうち、目標を達成した項目の割合が約40%ということであるが、せめて6～7割の達成度がなければ次につながらない。目標設定のさじ加減が重要であり、単年度ではなく複数年度かけて段階的に前進できるような設定の仕方が必要。
- ・資料3-1の資料6ページの成果指標の表中にある「特定健康診査の実施率」と「特定保健指導実施率」について、令和2年度目標の60%に対して、実績は、特定健康診査率が33.6%、特定保健指導実施率が15.9%と大きく下回っている。多くの市民は会社で健康診断を受けている。このような中で、郵送で「特

定健康診査が出来ますよ」と送られてきても、なかなか診断を受ける気持ちにはならない。そうにもかかわらず、なぜ60%という高い目標数値を設定したのか。

事務局：60%という目標数値は国が示した目標数値に準じて設定した。

委員：国は数字ありきで目標を示してくるかもしれないが、市では現実に則した目標を設定すべき。

委員：第五次大野市総合計画及び第1期大野市総合戦略を検証するなかで見えてきた大野市の強みや弱みは何か。

会長：今の大野市は強みが蓄積されつつある。先日開駅した道の駅「越前おおの 荒島の郷」に沿って中部縦貫自動車道が整備されていくということは、経済性の面でビジネスチャンスが大きく広がる。福井県の東の玄関口である大野市がこのチャンスを活かして様々な施策を展開していくことが必要。また、福井県から「新ふくい人(県・市町の支援を受けて県内にU・Iターンした人)」が1,000人達成という発表がなされたが、このような友好性の面においても中部縦貫自動車道は大きな強みとなる。県内9市の中でも大野市は期待度が高いと感じている。市民の皆さんが一丸となってまちづくりを進めていくことが重要。

(2) 第六次大野市総合計画、第2期大野市総合戦略について

○第六次大野市総合計画の概要 資料4-1

(説明概要)

- ・「基本構想」と「基本計画」で構成し、基本構想の計画期間は令和3年度～令和12年度の10年間とし、基本計画は前期と後期に分かれており、前期は令和3年度～令和7年度、後期は令和8年度～令和12年度の各5年間。
- ・第六次総合計画において、目指す10年後のまちの将来像は「人がつながり地域がつながる 住み続けたい結のまち」。将来像の実現に向けて、6つの分野（こども、健幸福祉、地域経済、くらし環境、地域づくり、行政経営）ごとに基本目標を定めている。
- ・地区別ワークショップやアンケート調査、審議会などでの協議を行いながら、たくさんの市民の方々の声を聞きながら策定した。
- ・市民、団体、企業などそれぞれの立場から「みんなができること」という項目を入れているほか、SDGsやニューノーマルへの適応といった視点も取り入れている。
- ・推進会議でのご意見を踏まえて、施策の実施状況及び効果の検証を行う。

○第2期大野市総合戦略の概要について 資料4-2

(説明概要)

- ・令和3年2月に「大野市人口ビジョン（令和2年度改訂版）」及び「第2期大野市総合戦略」を策定。
- ・大野市人口ビジョンとは、大野市における人口の現状分析を行い、今後目指すべき将来の

方向と人口の展望を示したものの。この分析をもとに人口減少対策の各施策をまとめたものが大野市総合戦略。

- ・第2期大野市総合戦略の対象期間は令和3年度～令和7年度の5年間。
- ・第2期大野市総合戦略で目指すべき将来像は、現在30,621人の人口を、2025年に定住人口を29,000人、2030年に27,300人、2045年に23,200人とし、研究機関が推計する人口推計よりもゆるやかな減少に抑えること。また、合計特殊出生率を段階的に回復させていくこと（2040年に2.07）や、転出超過を段階的に抑制し、2040年に研究機関の推計に対して100人抑制すること。
- ・構成は、4つの施策の方向性に分類しており、その中で基本的方向や施策を明示している。全体に関連する横断的観点として、「SDGs、デジタル化、ニューノーマルなどの新時代への対応」のほか、「中部縦貫自動車道県内全線開通、北陸新幹線福井・敦賀開業など高速交通網の整備を見据えた取り組み」を取り入れている。

（意見、質疑）※資料4-1、4-2まとめて

会長：総合計画と総合戦略の区別が難しいと思うが、要するに「大野市を良くしていこう」というための計画としてご理解いただきたい。各施策にまたがる横断的観点として、SDGsやデジタル化の観点だけでなく、「ニューノーマルへの適応」という観点を取り入れているのは大野市の独自性である。ニューノーマル時代をどのように生きていくかという点について、今後、委員の皆さんからご意見をいただきたい。

事務局：お手元に第六次大野市総合計画、第2期大野市総合戦略、大野市人口ビジョン（令和2年度改訂版）の各冊子をお配りさせていただいた。お時間のある時などにこの冊子を見ていただいて、次回の会議からでもご意見をいただきたい。

（3）専門部会について 資料5

（説明概要）

- ・専門部会は、推進会議の中に設置することができる会議体。主要な施策や課題などについて具体的に検討するもの。
- ・本年度は、市の主要な施策である脱炭素社会の実現に向けて、「ごみ減量部会」を設置し、ごみの減量化や資源化について検討。
- ・専門部会の開催回数は3回程度（6月～10月）、部員数は委員6名程度を予定。

（意見、質疑）

会長：今後、新たな専門部会ができる可能性もあるということによろしいか。

事務局：はい。

（4）その他

（意見、質疑）

委員：第五次総合計画の成果指標について、令和2年度は新型コロナウイルスの影響で実績値が下がったとのことであるが、コロナがなかったら達成したであろうという項目

も含めて示すと達成率は上がったのでは。

事務局：資料には令和元年度の数値を参考として記載したが、「コロナがなければ達成した」というような項目があれば、今後、備考欄にでもその旨記載することを検討したい。

委員：第六次総合計画に向けての課題として「文化芸術を振興するための拠点が必要」という説明があったが、それに向けて頑張って整備していただきたい。

○事務連絡（事務局）

- ・第2回の推進会議は10月頃を予定。専門部会の部員については、個別に委員へご依頼をさせていただくのでご協力いただきたい。
- ・本日お配りした、第六次大野市総合計画、第2期大野市総合戦略、大野市人口減少ビジョン（令和2年度改訂版）について今後の推進会議で使用するので持参をお願いしたい。

8 閉会

事務局：今年度の専門部会のごみの減量がテーマ。普段家事をされている女性の方が男性よりも関わる機会が多いと思う。ぜひ、参画したいという方は事務局にご連絡いただきたい。本日はご多用のところご出席いただき感謝申し上げます。